

わがまち歴史散歩

元禄時代、記録に残った女性たち

○元禄の池田村絵図に見える女性の名前

ふと思いつき、「元禄10年(1697)摂州豊島郡池田村絵図」には明らかに女性と思われる名前がどれぐらい出ているのか調べてみました。それは、家を代表する地位にあるものとして認められた女性の存在と考えたからです。

『新修池田市史』第2巻ではこのような調査は行っていません。しかも、対象とすべき屋敷数は、少なく見積もっても1437に上っているようです。

さて、調べた結果、絵図中に明らかに女性の名前と思われる記載があったのは8か町、13人にとどまりました。以下書き上げておきます。なお、彼女たちは全て借家住まい。最後の男性名は家主です。もつとも、見落としがあるかもしれないので、これが全てと断定はしないでおきます。

南新町	系引	いと	加右衛門
同	同	せん	別所佐兵衛
中新町	同	妙生	七郎兵衛
同	同	しま	玄同
大西町	同	むめ	同右
林口町	同	きく	(家主不記載)
同	同	むめ	同右
西本町	同	妙海	嘉右衛門

○「系引」と女性

同じ名前が多いことに驚きます。しかし、いまそれは横に置いておきます。ここでは、彼女らの仕事全て「系引」とされていることに注目し、考察してみます。

辞書で系引とは、納豆が糸を引くとか、陰で糸を引く人といった用例ばかりが幅を利かしています。しかし、糸繰りと同義とすれば、綿の実から種を除いて織物用の糸に紡いでいくことでしょ。作業は、簡易な道具である糸繰車を回して行うもので、どこでもでき、女性の仕事と考えられていました。

この「系引」を業とする人びとが池田の町にたくさんいたのです(『新修池田市史』第2巻)。元禄10年の池田村絵図には、118人が数えられているとのこと。

さて、「系引」を仕事とする人は、先の13人をのぞけば、全て男性の名前の下に続けて「後家」と表記されて

柳屋町	同	つま	宇兵衛
同	同	なつ	同
甲ヶ谷町	同	妙栄	大工九兵衛
米屋町	同	せん	日用弥蔵
同	同	むめ	同

います。たとえば、「長兵衛後家」とか「仁左衛門後家」といった具合です。「後家」とは、夫が亡くなった後、男子の子どもが成人し、家の跡を継ぐことができるまで死んだ夫の名前を盛り立てていく女性という意味でしょうか。家を代表する者として自分の名前を名乗れなかったのです。

しかし、「系引」の収入は少なく、生活はぎりぎりでした。これは、彼女たちの住まいが例外なく表通りから一歩も二歩も引き下がった裏町に集中し、いずれも狭かったことから判断できます。

ところで、こうした彼女たちに仕事を回した人がいるはず。元禄10年の池田村絵図を見ていく



新町の様子。左の道は現在の国道173号。女性名が見られる(伊居太神社蔵「元禄10年池田村絵図」)

と西ノ口町(現在の西本町辺り)の通りに面したところに木綿屋が2軒店を構えています。おそらく、この2軒が池田の町の120人近い「系引」にとって命の綱ともなっていた問屋でもあったのでしよう。

○女性たちの歴史に思いを寄せる

では、先に掲げた13人の女性たちは、なぜその名前が記されたのでしょうか。おそらく何らかの理由があり独身であったから、記載せざるを得なかったのでしょうか。夫との死別後子がなかった人物かもしれない。彼女たちも「後家」と同じく生活は苦しかったと思われる。なかには、仏門にあると思われる「妙」の字を持つ女性も3人います。女性たちの背景がさまざまに想像されます。

ちなみに、鎌倉時代や室町時代には有力な寺院に田地を寄進した裕福な女性が古文書の中に名前を残していました。そのような女性のありようは、この絵図が描かれた江戸時代ではどう変わっていったのでしょうか。さまざまなかを思うばかりです。

(市史編纂委員会委員長・小田康徳)
◆問い合わせは生涯学習推進課市史編纂 ☎754・6674